

中津川での外来種対策～地域との協働によるオオハンゴンソウの駆除作戦～

国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所 盛岡出張所 法人会員 ○矢倉広和、及川俊一

1. はじめに

岩手河川国道事務所 盛岡出張所で管理する中津川は、盛岡市街地を貫流していることもあり、多くの住民が河川に関心を持っている状況である。

平成25年7月10日に「中津川勿忘草を育てる会」から、中津川高水敷に生育している忘れな草の生育が今年はとても悪い。特定外来生物（植物）であるオオハンゴンソウの生育が原因の一因と考えられる。そのため駆除をお願いしたいとの要請があった。これにより、盛岡出張所では関係機関と調整を行い、中津川沿川地域住民と共にオオハンゴンソウの駆除を行うこととした。

本報告は、地域と協働で行ったオオハンゴンソウ駆除作戦について報告するものである。

2. オオハンゴンソウの特徴及び駆除について

オオハンゴンソウは、北アメリカ原産で、観賞用に導入されたものが野生化。開花時期（種子）は、7月～10月頃。種子や地下茎により繁殖する植物。

今回、オオハンゴンソウ駆除の要請を当方に行った「中津川勿忘草を育てる会」は、自ら、中津川高水敷の除草や河川清掃を実施し、わすれな草の生育環境を良好に保全するために活動している団体である。

わすれな草は、その可憐な様子から中津川の沿川住民に親しまれているが、オオハンゴンソウの生育により生育環境が脅かされ、生物の多様性の観点からも特定外来生物であるオオハンゴンソウの駆除は必要である。なお、中津川勿忘草を育てる会からオオハンゴンソウ駆除作業に協力したいとの申し出があり、当出張所では盛岡市や町内会等にも協力を呼びかけた上で駆除を行うこととした。

3. オオハンゴンソウ生育状況調査について

オオハンゴンソウの駆除に先立って、中津川のオオハンゴンソウ生育調査を実施することとした。また、平成24年度及びそれ以前の植生調査結果を確認したが、オオハンゴンソウの生育は、ごく限られた場所で少数確認されていた。しかし、平成25年度は、広範囲にわたりオオハンゴンソウの生育が確認されている。これは、急速に生育箇所が拡大されたものと推察する。また、「中津川勿忘草を育てる会」では、独自にオオハンゴンソウ生育箇所を調査したこともあり、その資料も参考とした。

4. 駆除試験について

駆除作戦前に植物の専門家立会いのもと、駆除試験を実施した。駆除は引き抜きで行ったが、想像していた以上に根が密で横に走っており、引き抜きのみでは茎が切れるため、スコップによる根掘を行ってから引き抜きを行った。この方法は、手間は係るが根を極力残さず駆除できるため、駆除作戦時も、これにて行うこととした。また、処分方法は焼却場にて焼却するなど、適切に処分することとした。

5. 外来生物法への配慮について

オオハンゴンソウは、外来生物法の適用となり、駆除作戦時は以下の点について留意した。

- ・防除作業の周知。
- ・実施者への防除従事者証交付及び作業時の携帯。
- ・焼却場までの運搬に際し、飛散防止対策を実施。



写真-1 オオハンゴンソウ



写真-2 わすれな草

6. 地域住民への駆除作戦協力依頼について

駆除作戦実施に伴い、盛岡市及び中津川に關係する各種団体（NPO法人もりおか中津川の会、中津川勿忘草を育てる会、盛岡南ロータリークラブ、岩手県民会館、野の花美術館）から協力を頂けることとなった。また、地域住民の参加協力が得られるよう、中津川沿川7町内会長の協力を得て、駆除作戦実施のチラシを約1,500世帯へ回覧してもらい、地域住民へ参加協力依頼を行った。しかし、予定していた8月10日は、出水対応のため延期とした。

出水対応後、改めて9月7日に実施することとし、再度、各町内会長へチラシ回覧の協力依頼を行った。各町内会長は快く協力してくれた。

7. 駆除作戦について

平成25年9月7日 8:00から10:00まで、駆除作戦を実施した。作業当日、雨天にもかかわらず、関係者も含め38名の参加があり、駆除面積は、約10,000m²、処分量0.8tとなった。

駆除作戦は、花の切り取り（種子飛散防止）、スコップによる根堀実施後に引き抜き、根に付着した土砂の洗浄（洗浄後の土砂は、ネットを通し根等の流出防止）を行った。

作業参加者の手際が良く、流れ作業を実施することで、作業の効率化が図られたと考える。



写真-3 作業状況



写真-4 集積状況

8. まとめ

文献では、オオハンゴンソウの種子が数年生きることが確認されているため、駆除は継続して実施する

必要がある。しかし、河川管理者のみでオオハンゴンソウの駆除を実施する場合、多大な労力及び費用を要するものと考えられる。また、市内でも度々オオハンゴンソウの生育を目にするため、種子が河道に飛来及び上流から流下してこくことも十分考えられる。よって、沿川地域も含めた駆除作業を実施しなければ、完全な駆除にいたらないものと考えられる。

中津川に関心のある住民が多く、除草や河川清掃を実施している団体が多い。また、盛岡市議会でもオオハンゴンソウ駆除について取り上げられている。河川管理者としては、次年度以降も、オオハンゴンソウの生育調査を実施する必要があり、また、駆除作業が必要であると考えている。

駆除作業の実態を出張所の広報誌やHPを活用して広報し、地域との協働によるオオハンゴンソウの駆除活動の輪を拡げていきたい。



資料-1 出張所広報誌

参考文献等

- ・河川における外来種対策の考え方とその事例：(財) リバーフロント整備センター
- ・簡易版特定外来生物オオハンゴンソウ駆除マニュアル：大澤剛士 赤坂宗光
- ・河川管理者のための外来生物ハンドブック：東北技術事務所